［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　平成20年2月19日

【評価実施概要】

事業所番号	３７７０１０３７２３
法人名	医療法人社団青冥会
事業所名	認知症高齢者グループホーム第六若葉荘
所在地	香川県高松市三谷町４５５１番地６ （電　話）087－840－1088

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年1月26日	評価決定日	平成20年2月19日

【情報提供票より】（平成19年12月1日記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・(平成)　17年　6月　15日	
ユニット数	2ユニット	利用定員数計　18人
職員数	16人	常勤　9人、 非常勤　7人、 常勤換算　7．5人

（2）建物概要

建物構造	鉄骨造り
	1階建ての1階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	34，650円		その他の経費（月額）	4，800円＋実費
敷　　金	有（　　円）		(無)	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　　円） (無)		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1，300円			

（4）利用者の概要（1月26日現在）

利用者人数	17名	男性　7名	女性　10名
要介護1	1名	要介護2	2名
要介護3	5名	要介護4	4名
要介護5	5名	要支援2	0名
年齢　平均	82．4歳	最低　65歳	最高　93歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	ミタニ藤田病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所周辺は田園、近くには山がある等、自然に恵まれ穏やかな環境である。事業所内には、ホールや廊下に利用者が作った作品で楽しみの跡が見える。また、職員が色紙等で作った飾りで、ほのぼのとした季節感への配慮がうかがえる。職員は家庭的な雰囲気づくり、楽しい共同生活の中で、尊厳と一人ひとりに応じた支援を認識し、利用者の言葉・行動から思いを汲み取り、支援に反映している。また、運営推進会議を活かし、地域の祭り見学やボランティアの訪問等、地域参加への幅が拡がりつつある。

管理者は、市町担当者や地域委員と事業所の実態・考え方を共有しながら支援を得て、地域に理解を得る関係づくりを築いていき、また、サービス向上のために、職員との勉強会を持ちたいとホーム全体の質向上を目指している。

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

評価結果をファイルにし、いつでも見られるよう事務所に閲覧できるようにしており、引継ぎ時に留意点などを話し合っている。しかし、改善課題に対する具体的な取り組み方法の統一までには至っていないので、改善計画シートを参考に、改善目標・計画、期間を設定して取り組むことを期待したい。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

外部評価について意義を確認しあい、自己評価については職員間で改善できることを意見交換している。その際に、取り組みについて具体的に検討し、実践に繋がることが望まれる。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議は、地域の行事・催し物などの情報やボランティア活用など、地域の理解と支援を得る機会となり、利用者の行事参加やボランティアによる訪問に繋がってきている。今後は、外部評価結果から課題に対する意見を改善へ結びつける取り組みが望まれる。また、市町担当者と事業所の実態・考え方を共有しながら、課題解決に向け共に取り組んでいけるような関係づくりが望まれる。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

意見・苦情はいつでも提供できるように、意見箱を玄関・各事務所に設置している。また、各ユニットの管理者や第三者の窓口があることを利用者・家族に説明している。意見箱に意見提供はないが、家族の面会時などによく面談し、意見を反映している。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

自治会には加入していないが、地域の水路掃除には職員が参加したり、利用者の散歩・外出時の挨拶などを大切にしている。運営推進会議や地域の委員等の協力、地域活動への積極的関わりをもち、人間関係を築きながら、地域の人々との交流が深まることを期待したい。

2.　評 価 結 果（詳細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	若葉荘全体の理念はある。事業所が地域との交流を重視する必要性があるので、地域や利用者のニーズを踏まえ、地域の中でその人らしく生活できるような第六若葉荘独自の理念を考える予定である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関や居間に掲示し、職員間で常に共有している。理念を意識し、おむつ交換、トイレ誘導の時などは、一人ひとりにあった援助に心がけている。また、楽しい共同生活になるよう言葉かけを大切にしたり、日々利用者の意向を申し送りで共有し、個々に対応している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、地域行事のふれあい祭りを見学したり、地域から通っている職員の情報で、職員が水路掃除に参加している。地域活動の情報収集は難しいが、地域の人々との関わりを積極的に持つことが望まれる。	○	直接地域と接点を持つことが難しいようであるが、運営推進会議や委員である地域の民生委員等の協力を得て、事業所が地域から受け入れられ、地域活動や人との関わりを積極的にもち、人間関係を築きながら、地域との交流が持てることを期待したい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価報告書を全員に読んでもらい、理解を呼びかけている。今回、自己評価は職員の意見を聞きながら評価を行った。外部評価結果はファイルをいつでも見られるように事務所で閲覧し、引継ぎ時に留意点等を話し合っている。今後、管理者は勉強会を持ちたいと考えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は市福祉課・民生委員・家族等で構成され、会議後、次の開催予定決めて、参加を呼びかけている。会議では地域の行事・催し物等の情報やボランティア活用など、地域の理解と支援を得る貴重な機会となり、改善に向けた取り組みになっている。今後は、外部評価について報告し、会議で改善に結びつける取り組みが望まれる。	○	運営推進会議で外部評価結果を踏まえて改善経過を報告し、残された課題等については多くの意見を引き出し、共に考え、協力体制の中で、改善へ結びつける取り組みを期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議では入退居状況の報告、事業所が毎年行っている祭りなどへの呼びかけ、コミュニティセンターに訪問のお願い等をしている。また、事業所を見学に来て欲しいことは伝えているが、会議以外での市町担当者と行き来する機会を持つことが望まれる。	○	市町担当者に事業所の実態・考え方やケアサービスの取り組み等を積極的に話す機会をつくり、実態・考え方を共有しながら、事業所のよりよいあり方や利用者の課題解決のために、市町の理解と支援を得る密な関係づくりが望まれる。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2か月ごとに近況報告、および、領収書を含んだ金銭出納を報告している。また、生活状況が変わった時や外泊時に家族が気にかけていたことについては、定期以外にも居室担当者が手紙で報告している。体調の変化、病院受診が必要な時は、電話連絡等で迅速に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関や各ユニットに意見箱を設置し、自由に意見・苦情等を申し出ることができる。各ユニットの管理者および各市町の介護保険課と県国民健康保険団体連合会が苦情窓口であることを説明している。意見箱に意見はなく、面会時に家族とよく面談し、意見を反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動・離職については、2か月ごとの手紙で家族に知らせている。新しい職員は利用者に紹介し、利用者の生活状況を説明、他の職員と一緒に介護・支援を行い、馴染みを作りやすくしたり、ケアが継続できるよう取り組んでいる。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内は掲示し、希望者は法人の担当部署に連絡し、出席している。研修報告はコピーして各ユニットに配付し、共有している。経験や習熟度に応じた研修を事業所として計画していないが、管理者が本の引用を提示したり、利用者への言葉かけ等をアドバイスしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	1～2か月に1回、同法人事業所の管理者の集会を開催しているが、他法人の同業者との交流の機会は持てていない。	○	例えば、外部の研修時受講者間で話す機会を持ち、他同業者との交流を持つ糸口をつくり、話し合う場や連携をもつように努めて欲しい。更には勉強会、相互訪問、ネットワークづくり等から日々のサービス向上や職員育成に役立つことを期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同法人の事業所の相談員からの連絡で入居するのが実態であり、家族との十分な話し合いで納得できるよう働きかけている。このような現状から、入居した時は、他の利用者との会話に職員が十分時間をとり、参加して、安心でき馴染めるよう支援している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とは同じ目線、笑顔、尊厳の気持ちで接している。表情に注意し、1日1回は利用者と共に笑えるよう考えている。ホールではあまり話さない利用者も、夜間に居室で1人になるとよく話すことがあり、対応している。また、昔の苦労話から今があること等を学ぶこと多い。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から生活状況、性格、家庭での今までの役割、生活上の希望等を把握している。生活の中で言葉・動作・行動等から反応を見ながら思いを読み取ることを、職員間で共有している。また、思ったことを言うことが難しい時は、ゆっくりと時間をかけ、意向を聞いている。		
思ったことをいう					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居時、家族から生活上の課題や意向をよく話し合って介護計画に反映している。6か月に1回の担当者会には家族に入ってもらうこともあり、家族の意向や利用者の思いを大切にしながら、利用者のよい暮らしが支援できるよう、職員と共にアイディアを出している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新たな問題が生じた時、状況が変化した時は会議を開いたり、申し送り時間を活用して、問題解決できるよう計画を見直しているが、新鮮な目で利用者を見て、計画を見直す取り組みが望まれる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が利用者の通院に時間を費やさなくてよいように、内科等の通院の送迎および受診時に付き添っている。利用者・家族の意向で約20km離れた歯科医まで、送迎・受診に付き添うこともある。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関受診が多いが、家族と相談しながら、家族・利用者が希望する歯科医院の受診支援をしている。体調変化のための受診時、また、定期的受診時の状況や結果は、家族に電話または面会時に報告し、受診結果の情報を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者会で終末期の対応について話し合い、契約書を作るなど、関係者との話し合いの機会を作っている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に尊厳を持って接することを、引継ぎ時などで意識づけしている。一人ひとりの誇りやプライバシーを傷つけないように、赤ちゃん言葉・威圧的言葉は注意徹底している。また、個人情報は、サービス担当者会議などで必要な場合に限り使用する同意書をもらっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務が忙しくても、できる限り利用者と会話をし、利用者のペースで穏やかに生活できるよう支援している。行事計画は利用者の希望を取り入れ、カラオケ等を職員と共に楽しむ機会を持っている。部屋に閉じこもりがちな利用者には、希望やペースに合わせ、気分転換を図るなどの支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の力を活かしながら、もやしの掃除、野菜の皮むき等を職員と一緒に行い、食事の準備を楽しむ場面づくりをしている。また、利用者一人ひとりが適切な量が食べられたことを、お互いが喜ぶような声かけをしている。時には、その日の食材で、利用者の希望の献立を工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯は決まっているが、その中で個人の希望に沿うようにしている。衣服の着脱時のプライバシーの保護、入浴時の転倒、浴槽での不安には十分配慮し、個々にあった介助をしている。特殊浴槽が整備されており、立位が難しい利用者も安心して入浴できる。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意とすることを見出し、日々楽しむ支援をしている。利用者が新聞を切り抜いては職員等に示してくれたり、習字を得意とする利用者に掲示物を書いてもらう等、張りのある生活に繋がっている。はり絵、ぬり絵、スケッチ、計算などを利用者間で楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出希望、帰宅要求が続く時などは、個別に外出支援をしている。季節に応じて、近くの山すその桜並木や近くの店へ買い物に行くなど、気分転換や季節の刺激を得る機会としている。また、外出歩行が難しい利用者には、車椅子での近距離外出や日光浴などの配慮をしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室はドアを閉めず、職員手作りののれんをかけている。日中、玄関は鍵をかけず、利用者一人ひとりの見守りに努めている。ただ、不審者情報もあり、十分な見守りが難しい入浴介助時は玄関の内側ドアは施錠している。玄関はセンサーが作動する。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルを整備し、廊下の壁に職員手作りの避難経路を明示している。職員と利用者が一緒になって、年1回避難訓練を行い、消防のアドバイスを受けている。今後は職員だけでの誘導訓練だけでなく、地域等の協力体制を築くことが望まれる。	○	介護度4・5の利用者が半数を占めていることからも、火災時だけでなく、地震時も具体的な避難誘導策を検討し、確実に誘導できるよう訓練を行うことが望まれる。また、職員だけの誘導には限界があることも踏まえ、地域住民・警察・消防等との連携を図り、協力体制を築くことを期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な食事・水分量や栄養がバランスよく取れるよう、食事時はゆっくり食べられる見守り・声かけをしている。朝・昼・夕のそれぞれの食事量、水分・おやつの摂取量を表に記録し、職員が共有している。また、尿量、皮膚の状況を常に観察し、脱水に注意している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには利用者のはり絵・ぬり絵・書などを掲示し、ほほえましい環境を作っている。廊下には、職員が季節の花やお月見の様子などを色紙で表現し、季節感を出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の意向を家族と相談し、今まで家で使い慣れたタンスに衣類を整理したり、家族の写真を飾ったりしている。　また、希望者は居室にテレビを持参するなど、利用者がその人らしく過ごせる環境づくりをしている。		